

～笑い飯哲夫さんとともに～ 桜井市のものづくりを巡ろう



木材の原水市（競り）・加工業者も巡りました。

ひとくちメモ 木の街 さくらい

桜井市は、良質な原木を産出する県南部地域と、京阪神などの大消費地に隣接しています。明治時代には鉄道・幹線道路が整備され、原木の買い付け・集荷・出荷を行う木材業や、加工を行う製材業が発展しました。



木の街
さくらい

木の文化を世界へ

桜井木材協同組合ロゴマーク▲



原木が全国へ向かう玄関口

大字生田にある、県内最大規模の県産材を主とする原木・製材品市場「ウッドメッセ奈良」。令和4年3月、奈良県銘木協同組合・桜井木材協同組合などの合意により誕生しました。地域が一丸となって、木材業界を盛り上げています。



響くかけ声 決まる一本の価値

奈良県で産出する木材の8割が、桜井市に集まります。ウッドメッセ奈良で毎月2回開催される競りには、良質な原木を買い付けようと、市内はもちろん近畿各地から製材業者が訪れます。

競りが始まると、競り子の威勢の良いかけ声が響き渡り、原木には次々



に値が付けられていきます。熱気のある競りの様子に、哲夫さんは「買い手はどこを見ているのか」などと質問しながら、興味深そうに見学していました。

木を見極め手を上げる買い手に、
テンポよく値を付けていく競り子。
長年の経験が感じられました。



理事長に聞く 木材産業の現在地

「奈良の木の品質はとても良い」と話すのは、桜井木材協同組合理事長の菅生康清さん。

奈良の人工林で育った木材は、

- 年輪の細かさ
- 均質で美しい表面の質感
- 枝打ちの丁寧さ

などが高く評価されており、寺社など和風建築の構造材としての価値が高いといえます。しかし、住宅の工法の変化などにより、需要は減少しています。

一方で、家具・内装などの化粧材といった「魅せる木」としての価値も高く、業界として今後も注力していきたい分野だといえます。

「健全な山は災害を防ぎ、美しい木が建物に使われれば、文化が残る。木材産業は、地域の歴史と暮らしを支えてきた」と話す菅生さんの話に、哲夫さんは熱心に耳を傾けていました。

ウッドメッセ奈良ホームページ▲



製材・加工を経て各地へ

市内製材業者に買い付けられた原木は、用途に応じて製材・加工されます。一本ごとに状態が異なるため、品質を左右する工程には、今も職人の手仕事がかかせません。



木を生かす 職人の手仕事

全国の寺社に構造材・化粧材を卸している製材所では、熟練の職人が、あうんの呼吸で製材。注文に合った木材はどの原木から取るか、無駄なくより多くの材料を取るにはどう製材すれば良いかなど、長年の経験が生きています。



建物のフローリングや天井など、内装材を中心に扱う製材所では、^{ふし}節の有無・木目・色などを考慮し、注文に合わせた木材に加工さ



れ、全国各地に出荷されます。^{ふし}節のある木材の補修・塗装などは、人の手による丁寧な作業によって、高い品質が保たれています。



木がつなぐ まちと暮らし

市内で加工された木材は、学校・公共施設・商業施設など、私たちの身の回りで使われています。当たり前すぎて見過ごしがちな「木のある暮らし」は、多くの人の手によって、支えられています。暮らしの中にある木の魅力を、改めて見つめてみませんか。



普段何気なく目にする場所にも、桜井市で作られた木材が使われているのですね～！



笑い飯哲夫のちょっとひとこと

ウッドメッセ奈良から少し南西に行くと、山田寺跡があります。跡ですので、世界遺産第1号である法隆寺のような伽藍^{がらん}は現存しませんが、昔は金堂と五重塔が回廊で囲まれるような見事な伽藍があったそうです。その回廊の一部は、昭和57年に倒壊した状態で発掘されたそうです。現存する最古の木造建築は法隆寺だと習いましたが、この発掘された回廊はそれよりも古いものらしいです。

山田寺跡から少し西に行くと、飛鳥資料館があります。飛鳥と名乗っていますから、資料館自体

は明日香村にありますが、飛鳥資料館の駐車場は桜井市にあります。先述の発掘された回廊は、こちらの飛鳥資料館で確認することができます。

この広報紙が発行される頃には「飛鳥・藤原の宮都」が世界遺産に登録されているかもしれませんが。飛鳥と名乗っていますから、もちろん構成資産の多くは明日香村にありますが、桜井市には資産の一つ、山田寺跡があります。その回廊が建築された時代から、桜井の木材業や製材業の方は、世界に誇る仕事をされてきたのだと思います。